鈴鹿川水系　内外水統合型の浸水想定図（1/30規模降雨）
【現況河道】

1．説明文

（1）この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、年超過確率1／ 30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／30（3%））の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。

（2）この浸水想定図は、現況の鈴鹿川流域（一部、天白川・金沢川流域含む）の河道、洪水調節施設及び雨水排水施設の整備状況を勘案して、年超過確率 1／30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／30（3%））の降雨に伴う洪水により鈴鹿川流域（一部、天白川・金沢川流域含む）の河川・下水道が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

（3）このシミュレーションの実施にあたっては、高潮による氾濫を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定範囲内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
　また、下水道からの氾濫は、塩浜地区、楠地区、河原田地区、内部地区、東御幸地区、金沢地区を考慮していますが、雨水出水浸水想定区域図とはシミュレーション条件が異なるため、雨水出水浸水想定区域図とは異なる浸水範囲・浸水深・浸水継続時間となっています。なお、このシミュレーションは、鈴鹿川水系河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（鈴鹿川中下流・鈴鹿川派川：平成7年5月型、鈴鹿川上流：昭和28年9月型、内部川：昭和40年9月型、安楽川：昭和36年6月型）や三重県洪水浸水想定区域図検討時の計画規模での降雨波形、各河川流域・下水道排水区域の特性・被害リスク等に基づいて設定した降雨波形等を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

2．基本事項等

（1）	公表年月日	令和8年3月31日	
（2）	作成主体及び対象となる河川	作成主体：国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 対象河川：鈴鹿川、鈴鹿川派川、内部川、安楽川、祓川、天白川、仁井川、電川、朝川、小柳川、帯川川、小池川、見長川、稲谷川、金沢川	
（3）	浸水区域（全河川のみ記載）	鈴鹿川水系鈴鹿川	北岸：三重県鈴鹿市安塚町字中屋敷414番地先から国道1号 南岸：三重県鈴鹿市安塚町字大字ケ谷897番地先から国道1号
		鈴鹿川水系鈴鹿川派川	鈴鹿川からの分流点から国道1号
		鈴鹿川水系内部川	北岸：三重県鈴鹿市安塚町字大字ケ谷2187番地先から鈴鹿川への合流点まで 南岸：三重県鈴鹿市安塚町字中川原2番地先から鈴鹿川への合流点まで
		鈴鹿川水系安楽川	北岸：三重県鈴鹿市国府町字平田町2148番地先から鈴鹿川への合流点まで 南岸：三重県鈴鹿市国府町字平野ヶ瀬779番地先から鈴鹿川への合流点まで
		鈴鹿川水系祓川	北岸：三重県鈴鹿市安塚町字平屋414番地先の下の橋から鈴鹿川への合流点まで 南岸：三重県鈴鹿市安塚町字平屋414番地先の下の橋から鈴鹿川への合流点まで
		天白川水系天白川	北岸：三重県鈴鹿市安塚町内田町から川口まで 南岸：三重県鈴鹿市安塚町内田町から川口まで
（4）	浸水の範囲となる降雨	鈴鹿川水系鈴鹿川、鈴鹿川派川、内部川、安楽川（全区間）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(196mm)
		鈴鹿川水系祓川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(144mm)
		天白川水系天白川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(89mm)
		鈴鹿川水系鈴鹿川(国交区間)	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(189mm)
		鈴鹿川水系内部川(国交区間)	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(189mm)
		鈴鹿川水系安楽川(国交区間)	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(140mm)
		鈴鹿川水系谷川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(89mm)
		鈴鹿川水系鈴鹿川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(77mm)
		鈴鹿川水系鈴鹿川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(77mm)
		鈴鹿川水系鈴鹿川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(77mm)
		鈴鹿川水系芝川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(189mm)
		鈴鹿川水系電川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(90mm)
		鈴鹿川水系鈴鹿川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(90mm)
		鈴鹿川水系小柳川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(90mm)
		鈴鹿川水系帯川川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(89mm)
		鈴鹿川水系小池川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(89mm)
		鈴鹿川水系見長川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(124mm)
		鈴鹿川水系稲谷川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(127mm)
		金沢川水系金沢川	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(180mm)
		下水道等（塩浜地区）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(131mm)
		下水道等（楠地区）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(114mm)
		下水道等（河原田地区）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(89mm)
		下水道等（内部地区）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(84mm)
		下水道等（東御幸地区）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(90mm)
		下水道等（金沢地区）	年超過確率1／30(全河川区間の中間値の雨量)(180mm)
（5）	河道等条件	現況（河道・洪水調節施設・下水道施設）	
（6）	調査年月	令和7年度、鈴鹿市、亀山市	
（7）	その他計算条件等	令和7年度、鈴鹿市、亀山市 ①この図は、鈴鹿川（決水予報河川及び水位周知河川）・その他河川（鈴鹿川以外の一級・二級河川）・下水道等（排水河川、普通河川、各個別水路）で破水・越流した場合の雨水排水計画図を作成しています。 ②この図は、各河川水系の河川の河口から上流において、一定の条件で破水・越流させた上の氾濫現況計算結果を基に作成したものです。 ③氾濫計算は、有限要素法メッシュ（三角形の網目状の格子（計算メッシュ）という）に分割し、これを1単位として水深を計算しているため、構造物による影響が反映できない場合があります。 ④雨水排水氾濫区域は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の標高差と比較し算出し、排水すべき計算メッシュ上の排水路や排水路上流端（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して描きしています。	

※この浸水想定図は流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.3m未満の区域
- 0.3m～0.5m未満の区域
- 0.5m～1.0m未満の区域
- 1.0m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域
- 河川等範囲
- 浸水想定区域指定の対象となる洪水予報河川・水位周知河川

この地図の作成に当たっては、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合発行の「2017三重県共有デジタル地図」を使用した。（承認番号 三総合地第１４号）